

赤井古墳群(倉敷市)

前方が赤井南古墳群3号墳



6世紀後半築造の円墳で、7世紀初頭にかけて追葬が行われたと云う

赤井南古墳群3号墳

北向きの斜面に築かれた径約一七mの円墳である。西に開口する横穴式石室を有している。天井石の全部と側石の多くが失われている。石室は片袖式で全長約九・七m、玄室長四・四m、同幅約一・八mを測る。石室床面には平石が敷き詰められており、排水施設も有している。

遺物には、各種の須恵器、馬具や大刀などの鉄製品、装身具類などとともに土師質亀甲形の陶棺片も検出されている。これらから本古墳は六世紀後半頃に築造され、七世紀初頭にかけて追葬が行われたものと思われる。

倉敷市教育委員会

文化財を大切にしましょう

片袖式石室の一部が残っている



石室床面には平石が敷きつめられており、排水施設も有していると云う



反対側から見たところ

 video



こちらは赤井西古墳群3号墳



赤井西古墳群3号墳

東向きの斜面に築かれた円墳で、南に開口する横穴式石室を有している。墳丘土はほとんど流失しており、天井石も一枚残しているのみである。石室の現存長は約三・三m、幅八五cmを測る。

未調査であるため副葬品等については明らかではないが、おおむね六世紀後半頃に築造された古墳であると思われる。

倉敷市教育委員会

横穴式石室の残骸が残っている



反対側から見たところ



参考ホームページ

<https://kofun.info/kofun/3812>

